人間発達科学部紀要　第11巻第1号：157－174（２０１６）

若者の価値観が被服行動に及ぼす影響：構造方程式モデリングによる検討

孫　珠熙・馬場　弘朗*

The Effects of Young People's Values on Their Fashion Behavior: An Analysis Using Structural Equation Modeling

Ju-hee SOHN, Hiroaki BABA*

Abstract

This study used printed questionnaires to survey university students (n=348) to understand the impact of young people's values on their fashion behavior. Its findings showed that when self-reporting their jacket size, about 60% of males reported wearing size L or larger, while about 30% of females reported wearing size L or larger. There were few statistically significant differences by gender on assessed average scores for value items, and the three factors of I. Assertiveness/Self-esteem, II. Need for Approval, and III. Negativity/Fatigue were identified. Statistically significant differences by gender were apparent for many fashion behavior items. Structural equation models having strong fit were identified for both values and fashion behavior. Young persons who were more assertive and had more need for approval in analysis by value type (four clusters) tended to be more assertive in their self-expression through fashion behavior. On the other hand, many of the young people were passive in their values and uninterested in fashion behavior. These findings suggest that young people can develop assertive values by being given opportunities to take an interest in how they dress.

キーワード：構造方程式モデル，大学生，価値観，被服行動，類型化
keywords：structural equation models, university students, values, dressing behavior, classification

Ⅰ．緒　言

ファッションは人が自分を表現する手段であり，個人の価値観や意識の違いがそれぞれのファッションに強く影響すると考えられる。松下の研究によると，日本人は以前と比べ，「日本を誇りに思う」，「学歴・肩書きが大切」など，やや保守的な価値観が伸び，近所づきあいや仲間との「和」を大切にする意識も高まっている[1)]。一方で，「よりよい生活のために今の生活を変える」，「起業したい」などの変化や挑戦については消極的になっており，近年は全体的に現状満足・現状維持傾向になってきていると言う。また，価値観の変化を背景に，利便性消費の意識が強まり，豪華で顕示的な消費はしなくても日常にささやかな満足をもたらすものには，お金を使い，物は買わずとも体験にはお金を払うなど，従来と違ったかたちで消費を楽しんでいる傾向があることもわかった[2)]。山中ら[3)]の研究では「母親の価値観が幼児服の購買行動に及ぼす影響」，孫のライフスタイルをファッション行動[4)5)]など関連づけた研究報告がある。これらの研究は都市部を対象にした成果を報告している。

これまで，北陸地域の若者の価値観やファッション行動に関する研究は筆者ら[6)7)]の富山県のアパレルブランド分析や被服行動の分析のみである。

手塚[8)]の「いまどきのヤツは」で，よりよい未来が約束されない中，確定した過去に関心を向け，そこに価値を見出し維持しようとするのは今の若者にとって当然と言っている。また，かつての若者は「約束された未来と接続し，過去を切り捨てながら今日を生きる」に対して，今の若者は「確定した過去と接続し，変わらぬものを確認しながら今日を生きる」と解説している。

現代において若者は経済面にも厳しい状況に置かれており，「若者の消費離れ」が続く。価値観の多様化の背景には，インターネットやスマートフォンの出現により，生活の利便性が向上し，様々な情報

*富山大学人間発達科学部人間環境システム学科
環境社会デザインコース　2016年３月卒業

を取捨選択できる時代となったことが挙げられる。また，女性の社会的地位が向上し，男女の性別格差が見直され，家事や育児を男性が行ったり，女性のスポーツが盛んになったりと男女の性別意識が薄れてきている。同性愛の理解なども多様な価値が認められる時代に移っている象徴といえる。

価値観の変化は，被服行動の面でもその影響が伺える。例えば，従来は女性のみが使用していた化粧水やボディクリームなどの基礎化粧品を男性が使用するようになったり，女性のように長い髪の男性が平然と街を歩いていたりする。また，アパレル産業はグローバル化が進み，低価格で品揃えのバリエーション豊かな商品を展開する海外のファストファッションの台頭や，インターネット技術向上による被服の無店舗販売の増加など，ファッションにも国際化の流れが押し寄せ，若者を取り巻く環境は多様化している。このような中，地方の若者を対象とした価値観とファッション行動の関係に焦点を当てた研究は意義があると考える。

そこで，本研究では，今日の激しい変化の時代の渦中にある若者の多様な価値観の全体像を明らかにし，価値観の類型化によってファッション行動の違いを探り，現在の若者のファッション行動にどんな特徴が出るのかを明らかにすることを目的とする。本研究により現代の若者の価値観とファッション行動，経済状況，余裕時間，体型サイズのそれぞれを明らかにすることで，富山県のアパレルブランドにおいて，現代の若者の多様なニーズの把握や商品の品揃え計画に参考となることを期待する。

Ⅱ．方　法

2-1. 調査方法・時期

本研究には質問紙調査を用い，調査時期は2015年７月，調査対象者はＴ大学生男女である。標本数は348票，有効回答数は348票（項目により欠損値あり）である。性別は，男子124票（35.6%），女子224票（64.4%）である（表1）。

2-2. 調査内容

2015年１月に行った質問紙による予備調査の結果から項目を見直し，本調査を行った。質問紙の測定項目は，「基本属性」項目，「価値観」に関する項目，「ファッション行動」に関する項目の３つに大別する。研究の枠組みを図１に示した。

2-3. 分析方法

分析にはIBM SPSS Statistics 22.0Jを用い，単純集計，クロス集計によるカイ２乗検定，平均値の差の検定（t検定），因子分析，クラスター分析を行った。共分散構造分析（=分析の手法）はAMOS（=分析のツール）を使った。AMOSとは構造方程式モデリング（=分析の目的）Structural Equation Modelを視覚的に表すプログラムであり，変数間の関係性をパス図を用いて表現し，分析するプログラムのことである[10)]。

表 1. 調査対象者の基本属性

性別		男 n	%	女 n	%	計 n	%
		124	35.6	224	64.4	348	100

学部		人文 n	%	人発 n	%	経済 n	%	計 n	%
	男	22	17.9	62	50.4	39	31.7	123	100
	女	76	33.9	99	44.2	49	21.9	224	100
	全体	98	28.2	161	46.4	88	25.4	347	100

学年		1年生 n	%	2年生 n	%	3年生 n	%	4年生 n	%	計n	%
	男	84	77.1	11	10.1	9	8.3	5	4.6	109	100
	女	179	92.3	2	1	5	2.6	8	4.1	194	100
	全体	263	86.8	13	4.3	14	4.6	13	4.3	303	100

出身県		富山県 n	%	石川県 n	%	福井県 n	%	中部地方 n	%	その他 n	%	計 n	%
	男	35	28.9	26	21.5	5	4.1	32	26.4	23	18.9	121	100
	女	97	43.5	61	27.4	10	4.5	34	15.2	21	9.3	223	100
	全体	132	38.4	87	25.3	15	4.4	66	19.2	44	12.9	344	100

居住形態		一人暮らし n	%	実家 n	%	計 n	%
	男	82	67.8	39	32.2	121	100
	女	118	52.9	105	47.1	223	100
	全体	200	58.1	144	41.9	344	100

※欠損値あり

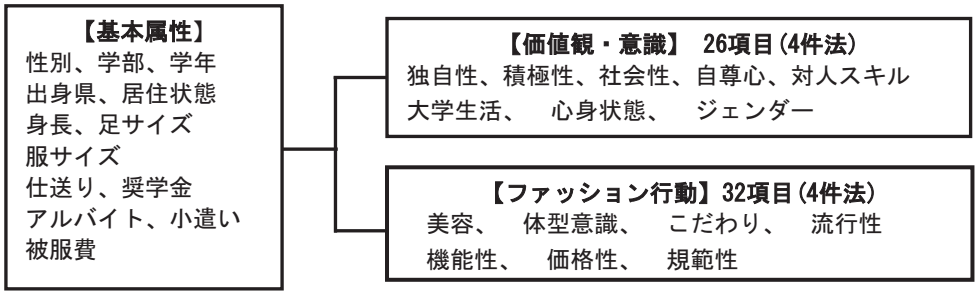

図 1. 研究の枠組み

Ⅲ. 結　果

3-1. 基本属性

(1) 学部，学年・出身県・居住形態

学部は，男女共に人間発達科学部（男子50.4%，女子44.2%）が最も多い。男子は経済学部（31.7%），人文学部（17.9%）と続き，女子は人文学部（33.9%），経済学部（21.9%）と続いた。学年は，1年生（男子77.1%，92.3%）が男女共に最も多くなっている。出身県は，男女共に，富山県（男子28.9%，女子43.5%）が最も多く，男子は中部地方(26.4%)，石川県（21.5%）と続き，女子は石川県（27.4%），中部地方（15.2%）と続いた。北陸（富山県，石川県，福井県）の出身者は，男子は全体の54.5%，女子は全体の75.4%であり，男女で20%以上の差がある。これは，男子は積極的に親元から離れる一方，女子は親元を離れず地元に残る風習があるためと考えられる。

居住形態は，男女全体で一人暮らし（58.1%），実家（41.9%）であり，一人暮らしの学生の割合が高い（表1)。男女別に見ると，一人暮らし（男子67.8%，女子52.9%）の割合は男子の方が高いのに対し，実家（男子32.2%，女子47.1%）の割合は女子の方が高い。これは，出身県からも分かるように，男子は半数近くが地元から離れ県外に出ていく一方，女子は7割近くが県内や隣県に残って実家から通学するためと考えられる。

(2) 体型の特徴

自己申告での平均身長は，男子172.1cm，女子158.7cmであった。また，自己申告での足のサイズの平均は，男子26.6cm，女子23.7cmであった（表2)。身長については，文部科学省の2014年度の体力・運動能力調査[9]によると，平均身長（20–24歳）は男子171.49cm，女子158.50cmであり，男女とも本調査が上回っている。足のサイズについては，先行研究[6]では男子26.45cm，女子23.77cmであり，男子は本調査が上回り，女子は本調査が下回った。

男女別の上衣のサイズは，男子はLサイズ（51.2%)が最も多く，女子はMサイズ（61.2%）が最も多かった。男子の上衣は，XLサイズ（10.6%）の割合が全体の約1割を占めており，Lサイズ（51.2%）をあわせると男子全体の約6割を占めている。XSサイズ（0.8%），S（2.4%）サイズの割合は男子全体の1割にも満たなかった。女子の上衣は，XSサイズ（1.3%），Sサイズ（9.8%）が女子全体の約1割であるのに対し，Lサイズ（25.9%），XLサイズ（1.8%）の割合は約2.8割を占めている。

表 2. 調査対象者の体型

身長・足サイズ		身長(cm)	n	SD	足サイズ(cm)	n	SD
	男	172.1	121	5.342	26.6	122	1.268
	女	158.7	224	4.766	23.7	224	0.736

		XS(n)	%	S	%	M	%	L	%	XL	%	計	%
上衣サイズ	男	1	0.8	3	2.4	43	35.0	63	51.2	13	10.6	123	100
	女	3	1.3	22	9.8	137	61.2	58	25.9	4	1.8	224	100
	全体	4	1.2	25	7.2	180	51.9	121	34.9	17	4.9	347	100
		XS	%	S	%	M	%	L	%	XL	%	計	%
下衣サイズ	男	0	0.0	6	4.9	42	34.4	60	49.2	14	11.5	122	100
	女	3	1.4	23	10.4	122	55.0	69	31.1	5	2.3	222	100
	全体	3	0.9	29	8.4	164	47.7	129	37.5	19	5.5	344	100

※欠損値あり

男女別の下衣のサイズは，上衣と同じように，男子はLサイズ（49.2%）が最も多く，女子はMサイズ（55.0%）が最も多かった。男子の下衣は，XLサイズ（11.5%）の割合が全体の約1割を占めており，Lサイズ（49.2%），XLサイズ（11.5%）が男子全体の約6割を占めている。XSサイズ（0%），Sサイズ（10.4%）の割合は男子全体の1割に留まっている。女子の下衣は，XSサイズ（1.4%），Sサイズ（10.4%）が女子全体の約1割であるのに対し，Lサイズ（31.1%），XLサイズ（2.3%）の割合は約3割を占めている（表2）。

これらのことから，男女共体型が大きく，特に男子に体型の大きい若者が多いことがわかった。

（3）経済状況と被服費

経済状況については，それぞれの項目で1か月の金額を自由記述で質問した。1か月の仕送りの平均値は全体42,718円，男子37,600円，女子46,374円であった（表3）。1か月の奨学金の平均値は全体50,510円，男子52,125円，女子49,074円であった。1か月のアルバイト代の平均値は全体43,381円，男子54,267円，女子37,975円であった。1か月の小遣いの平均値は全体27,291円，男子31,095円，女子25,226円であった。奨学金，アルバイト代，小遣いの平均額は男子の方が高く，仕送りの平均額は女子の方が高かった。収入面では，男子の仕送り額と女子のアルバイト代，男子のアルバイト代と仕送り額がほぼ同じ額であり，生活費の賄い分は男女で差はないといえる。

次に，被服費について，1か月の金額を自由記述で質問した。1か月の被服費の平均値は全体9,836

表3. 経済状況と被服費の平均値

	男	n	SD	女	n	SD	全体	SD	n
仕送り(円)	37,600	65	17797	46,374	91	20400	42,718	19,780	156
奨学金(円)	52,125	48	23033	49,074	54	25626	50,509	24,369	102
アルバイト代(円)	54,267	71	21750	37,975	143	19581	43,381	21,684	214
小遣い(円)	31,095	115	21863	25,226	212	21169	27,291	21,565	327
被服費(円)	9,214	91	6,437	10,116	202	8,934	9,836	8,239	293

表4. 若者の「価値観」の測定尺度項目の評定平均値

	男		女				
価値観・意識　質問項目(23項目)	平均値	SD	平均値	SD	t値	p	short words
1. 自分のことを認めてもらいたい	3.30	0.72	3.24	0.63	0.80		1. 承認欲求
2. 誰からも嫌われたくない	3.14	0.80	3.08	0.74	0.71		2. 嫌われたくない
3. 他人の評価が気になる	3.19	0.75	3.27	0.62	−1.00		3. 他人の評価
4. リーダーシップを発揮する方だ	2.54	0.91	2.14	0.81	4.11	***	4. リーダーシップ
5. 行動力がある方だ	2.79	0.85	2.60	0.79	2.09	*	5. 行動力
6. 好奇心が強い	3.19	0.74	3.15	0.68	0.43		6. 好奇心
7. マナーや礼儀をわきまえている	3.14	0.63	3.04	0.65	1.35		7. マナー・礼儀
8. 責任感や粘り強さがある	2.89	0.79	2.92	0.71	−0.39		8. 責任感・粘り強さ
9. 結婚はすべきだと思う	3.22	0.86	3.13	0.90	0.85		9. 結婚はすべき
10. 自分は価値ある人間だと感じている	2.74	0.82	2.45	0.73	3.43	**	10. 自分に価値
11. 自分の言動に自信を持っている	2.65	0.79	2.31	0.71	4.19	***	11. 言動に自信
12. 自己嫌悪をおぼえることがある	3.06	0.85	3.36	0.69	−3.57	***	12. 自己嫌悪
13. 人に頼みごとをするのが苦手だ	2.75	0.92	2.79	0.83	−0.42		13. 頼みごと苦手
14. 気まずくなった人と仲直りできる	2.59	0.86	2.62	0.75	−0.30		14. 仲直り
15. 知らない人の集まりでもすぐに友達をつくれる	2.50	0.96	2.43	0.87	0.67		15. 人見知りしない
16. 部活やサークル活動を重視する	2.90	0.97	2.94	0.93	−0.32		16. 部活サークル重視
17. 大学の友人関係に満足している	3.17	0.76	3.02	0.81	1.65		17. 大学の友人関係満足
18. 学業への意欲・興味を持っている	2.86	0.85	2.89	0.70	−0.30		18. 学業への意欲・興味
19. アルバイトを重視する	2.46	0.88	2.44	0.83	0.23		19. アルバイト重視
20. やる気が乏しい	2.43	0.89	2.54	0.78	−1.28		20. 無気力
21. 疲労感を感じている	2.90	0.81	3.00	0.73	−1.19		21. 疲労感
22. 将来に希望がもてない	2.40	0.90	2.46	0.86	−0.62		22. 将来に不安
23. 女性は結婚後は職をもつべきではない	1.56	0.70	1.39	0.56	2.35	*	23. 女性の伝統的役割
***:p＜0.001, **:p＜0.01, *:p＜0.05	N=124		N=224				

円，男子9,214円，女子10,116円であり，男子に比べ女子の方が若干上回っているが，被服にかけるお金は男女ともに1万円前後と，ほぼ同じ額であるといえる（表3）。

3-2. 若者の価値観

若者の価値観について，独自性，積極性，社会性，自尊心，対人スキル，大学生活，身心の状態，ジェンダーなどから構成された23項目を，4段階評定尺度（4.あてはまる，3.ややあてはまる，2.ややあてはまらない，1.あてはまらない）に対してそれぞれ4から1点を与え，評定を求めた。「価値観」の測定尺度項目と評定平均値を表4に示す。

3-2-1. 若者の「価値観」の男女比較

（1）「価値観」各項目の男女差

男女間でどのような価値観の違いがあるのかを見るため，平均値の差の検定（t検定）を行った。その結果，23項目中6項目において有意差がみられた（表4）。他の17項目においては有意差が見られなかったため，男女で価値観に大きな違いはないといえる。表4に示すように，有意差がみられた項目において，男子の評定平均値が高いのは5項目であり，女子の評定平均値の方が高いのは1項目のみであった。

（2）「価値観」項目の男女差の詳細

価値観において，男女で有意差のあった項目を詳細に見るためクロス集計によるカイ2乗検定を行った。

「4.リーダーシップを発揮する方だ」の項目は，男子は「あてはまる」（15.3%），「ややあてはまる」（36.3%）が全体の約半数なのに対し，女子は「あてはまらない」（20.5%），「ややあてはまらない」（51.3%）が全体の約7割にのぼった。また，「あてはまる」の割合は男子が女子の2倍強となっている（図2）。

「5.行動力がある方だ」の項目は，「あてはまる」（男子23.4%，女子11.7%）の割合が男子は全体の約2割であるのに対し，女子は全体の約1割と，男子が女子の約2倍の割合を占めている。また，「あてはまらない」（男子4.0%，女子7.2%）の割合は女子が男子の約2倍となっている（図3）。

「10.自分は価値ある人間だと感じている」の項目は，男子は「あてはまる」（17.7%），「ややあてはまる」（44.4%）が全体の約7割を占めているのに対し，女子は「あてはまらない」（8.5%），「ややあてはまらない」（43.9%）が全体の過半数を占めている。また，「あてはまる」（男子17.7%，女子5.8%）の割合は男子が女子の約3倍となっている（図4）。

「11.自分の言動に自信を持っている」の項目は，男子は「あてはまる」（15.3%），「ややあてはまる」（38.7%）が全体の過半数を占めているのに対し，女子は「あてはまらない」（11.2%），「ややあてはまらない」（50.0%）が全体の約6割を占めている。また，「あてはまる」（男子15.3%，女子3.1%）の割合は男子が女子の約5倍である一方，「あてはまらない」（男子4.0%，女子11.2%）の割合は女子が男

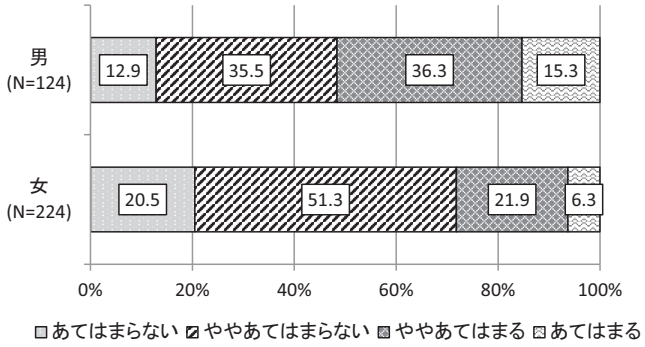

図2. 4. リーダーシップを発揮する方だ
（***：p＜0.001）

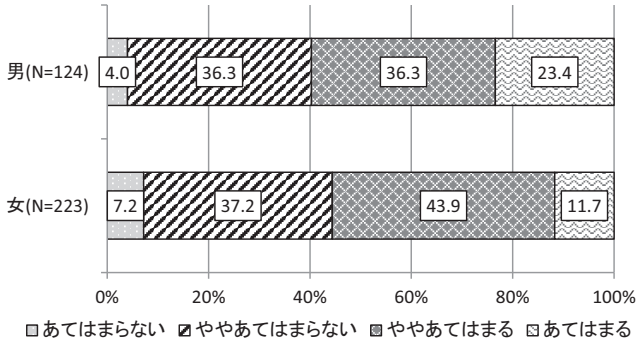

図3. 5. 行動力がある方だ
（*：p＜0.05）

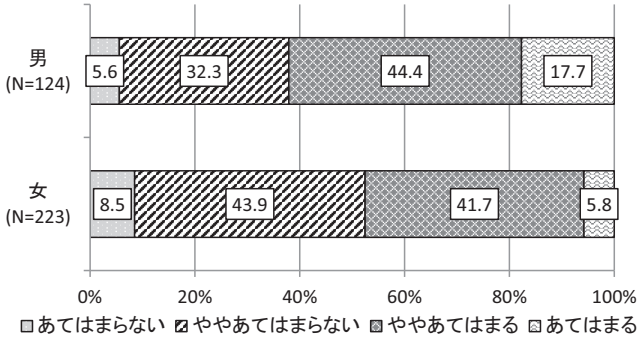

図4. 10. 自分は価値ある人間だと感じている
（**：p＜0.01）

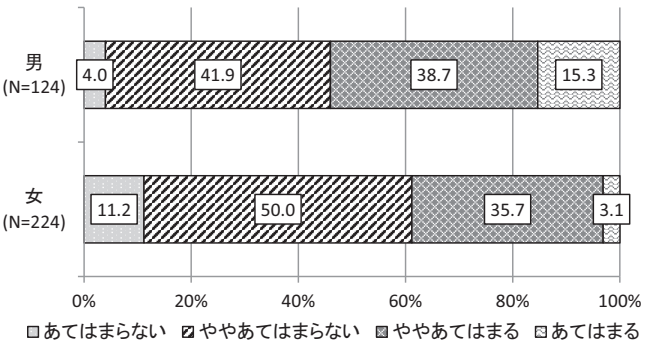

図 5. 11. 自分の言動に自信を持っている
(***：p＜0.001)

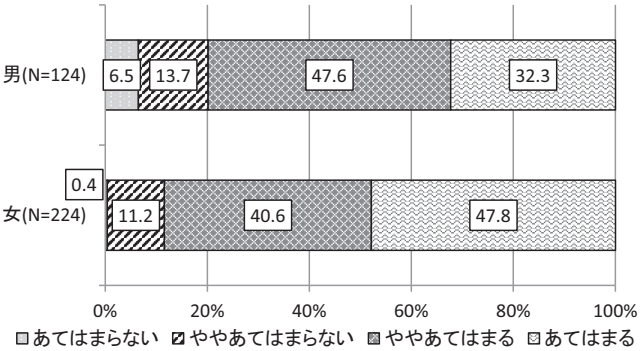

図 6. 12. 自己嫌悪をおぼえることがある
(***：p＜0.001)

子の約 3 倍となっている（図 5）。

「12.自己嫌悪をおぼえることがある」の項目は，「あてはまる」（男子32.3%，女子47.8%），「ややあてはまる」（男子47.6%，女子40.6%）が男子は全体の約 8 割を占め，女子は全体の約 9 割を占めている。また，「あてはまらない」（男子6.5%，女子0.4%）の割合は男子が女子の約 6 倍であった（図 6）。

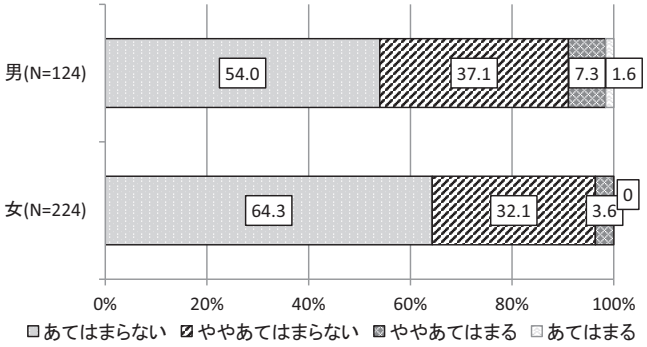

図 7. 23. 女性は結婚後は職をもつべきではない
(*：p＜0.05)

「23.女性は結婚後は職をもつべきではない」の項目は，男女とも「あてはまらない」（男子54.0%，女子64.3%），「ややあてはまらない」（男子37.1%，女子32.1%）が全体の約 9 割を占めているまた，男子は女子に比べ「あてはまる」（男子1.6%，女子 0%），「ややあてはまる」（男子7.3%，女子3.6%）の割合が約 2 倍であった（図 7）。

以上のことから，男子は自分に自信を持ち，積極的にリーダーシップを発揮して行動する一方，女子は自分に自信がなく消極的己嫌悪を抱く傾向があるが，これは女子の自分に対する期待値や理想が高く，現状の自分に不満足であるためと考えられる。また，「女性は結婚後には職をもつべきではない」の項目では，男子が女子に比べ肯定的な考えを持っている割合が高いが，男女とも 9 割ほどの割合が否定的な考えであり，現在の若者の価値観の中で，男女の性別による格差や性別意識が薄れつつあるといえる。

表 5.「価値観」の因子分析（全体） N=348

評定項目（13項目）	因子負荷量 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
5 行動力がある方だ	.749	.164	−.214
4 リーダーシップを発揮する方だ	.702	.162	−.145
11 自分の言動に自信を持っている	.625	.048	−.245
10 自分は価値ある人間だと感じている	.619	.087	−.362
15 知らない人の集まりでもすぐに友達をつくれる	.614	.144	−.207
8 責任感や粘り強さがある	.550	.104	−.197
6 好奇心が強い	.457	.234	−.092
3 他人の評価が気になる	.027	.768	.366
1 自分のことを認めてもらいたい	.328	.731	.121
2 誰からも嫌われたくない	.135	.717	.115
22 将来に希望がもてない	−.264	.176	.715
20 やる気が乏しい	−.288	.089	.602
21 疲労感を感じている	−.061	.218	.533
[寄与率] 累積寄与率 %	[23.5]	[14.6]	[5.7]43.7
Ⅰ 積極性・自尊心	1.000	.213	−.334
Ⅱ 承認欲求		1.000	.268
Ⅲ ネガティブ・疲労感			1.000

最尤法−プロマックス回転

3-2-2. 若者の「価値観」の探索的因子分析（全体）

現代の若者の「価値観」23項目（4 件法）に対して，全体構造を調べるため因子分析を行った（表 5）。その結果，測定尺度23項目中，最終的な測定尺度項目は固有値 1 以上の13項目となり，3 因子が抽出され，累積寄与率は43.7%であった。第一因子は，「5 行動力がある方だ」，「4 リーダーシップを発揮する方だ」，「11 自分の言動に自信を持っている」，「10 自分は価値ある人間だと感じている」，「15 知らない人の集

まりでもすぐに友達をつくれる」,「8 責任感や粘り強さがある」,「6 好奇心が強い」の項目の因子負荷量が高いことから「Ⅰ 積極性・自尊心」と命名した。第二因子は,「3 他人の評価が気になる」,「1 自分のことを認めてもらいたい」,「2 誰からも嫌われたくない」の項目の因子負荷量が高いことから「Ⅱ 承認欲求」と命名した。第三因子は,「22 将来に希望がもてない」,「20 やる気が乏しい」,「21 疲労感を感じている」の項目の因子負荷量が高いことから「Ⅲ ネガティブ・疲労感」と命名した。

3-2-3. 若者の「価値観」の類型化

若者の「価値観」23項目（4 件法）の因子分析によって得られた 3 因子（Ⅰ.積極性・自尊心, Ⅱ.承認欲求, Ⅲ.ネガティブ・疲労感）によって現在の若者がどのように分類され, どのような特徴が見られるのかを検討するため, 因子得点をもとにword法によるクラスター分析を行った。その結果, 4 つのクラスターに分類された（表 6）。

まず, 因子ごとに各クラスターの得点をみていくと,「Ⅰ 積極性・自尊心」の得点が最も高いのはCL4（N=91）, 得点が最も低いのはCL2（N=77）となっている。「Ⅱ 承認欲求」の得点が最も高いのはCL3(N=93), 得点が最も低いのは CL2(N=77)となっている。「Ⅲ ネガティブ・疲労感」の得点が最も高いのは CL1（N=85）, 得点が最も低いのはCL4（N=91）となっている（図 8）。

次に, 4 つのクラスターの「価値観」各項目における評定平均値を示した（図 9）。CL1（N=85）は,

表 6.「価値観」各クラスターの男女割合 N（%）

	CL1	CL2	CL3	CL4	全体
男	23(18.5)	24(19.4)	37(29.8)	40(32.3)	124(100.0)
女	62(27.9)	53(23.9)	56(25.2)	51(23.0)	222(100.0)
全体	85(24.6)	77(22.3)	93(26.9)	91(26.3)	346(100.0)

※欠損値あり

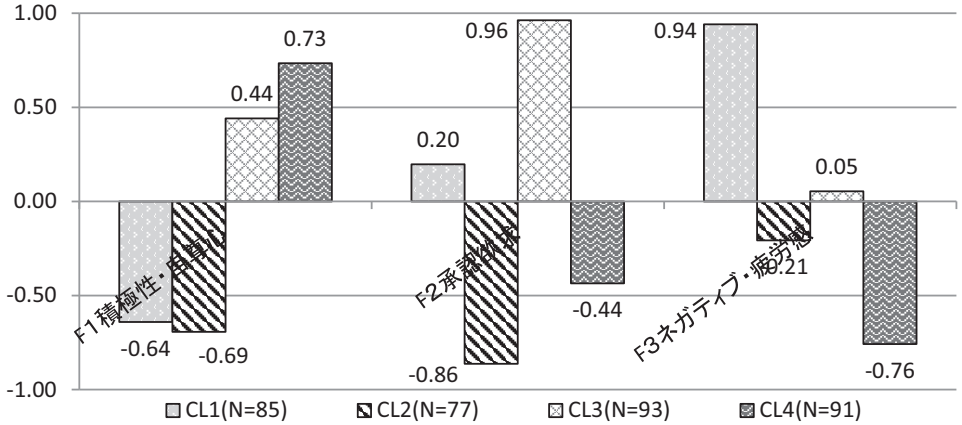

図 8.「価値観」の各クラスターの因子得点（全体）

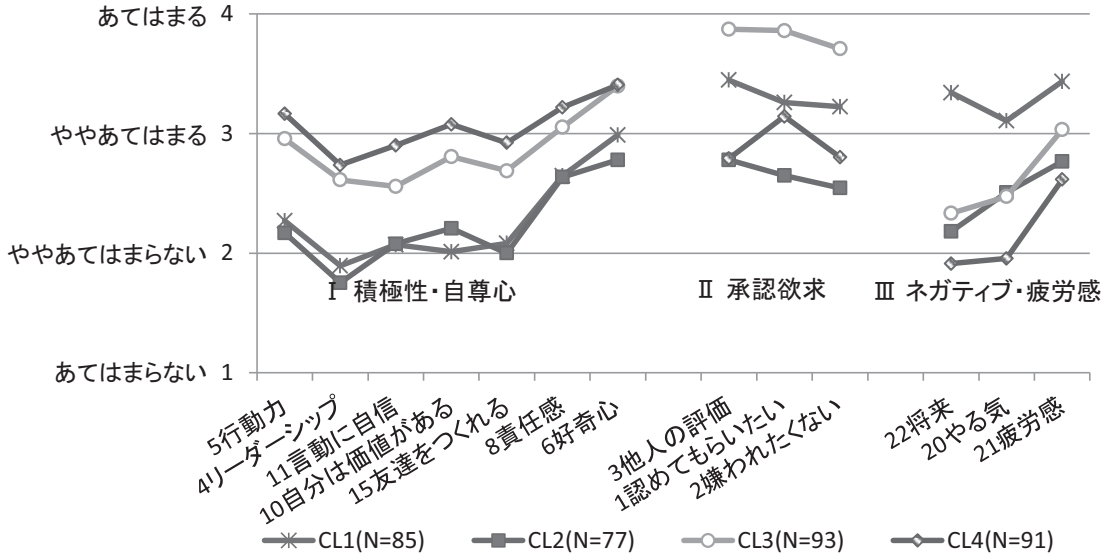

図 9.「価値観」3 因子の各クラスター評定平均値（全体）

「Ⅲ ネガティブ・疲労感」を構成するすべての項目の得点が４つのクラスターの中で最も高く，「10 自分は価値ある人間だと感じている」（Ⅰ 積極性・自尊心）の項目の得点は最も低い。CL2（N=77）は，「Ⅱ 承認欲求」を構成するすべての項目の得点が４つのクラスターの中で最も低く，「Ⅰ 積極性・自尊心」を構成している「5 行動力がある方だ」，「4 リーダーシップを発揮する方だ」，「15 知らない人の集まりでもすぐに友達をつくれる」，「8 責任感や粘り強さがある」，「6 好奇心が強い」の項目の得点も最も低い。CL3（N=93）は，「Ⅱ 承認欲求」を構成するすべての項目の得点が４つのクラスターの中で最も高く，「6 好奇心が強い」（Ⅰ 積極性・自尊心）の項目の得点も高い。CL4（N=91）は，「Ⅰ 積極性・自尊心」を構成するすべての項目の得点が４つのクラスターの中で最も高く，「Ⅲ ネガティブ・疲労感」を構成するすべての項目の得点が４つのクラスターの中で最も低い。

これらの結果から，CL1（N=85）は「ネガティブで疲労している群」，CL2（N=77）は「消極的で承認欲求が低い群」，CL3（N=93）は「好奇心があり承認欲求が高い群」，CL4（N=91）は「自信を持ち積極的で活発な群」と特徴づけられる。

3-2-4. 若者の「価値観」の構造方程式モデリング（全体）

若者の価値観における因果関係を明らかにするため，共分散構造分析を行った（図10）。「F1 積極性・自尊心」の７項目，「F2 承認欲求」の３項目，「F3 ネガティブ・疲労感」の３項目を観測変数（四角形で表す）とした構造方程式のモデルを検討した。この際，欠損値がある項目は隣接する項目との平均値に置き換えた。構造方程式のモデリングの妥当性を検討した結果，適合度指標[10] は GFI=0.929（1.0に近いほど良い），AGFI=0.895（GFI に近いほど良い），RMSEA=0.074（0.7以下で当てはまりが良いとされる）を示したので，モデルの説明力，データへの当てはまりから適合度が高いモデルであると言える。

「F1 積極性・自尊心」⇔「F2 承認欲求」（両方向の矢印は共変関係を示し，お互いに関連しあう状態を表す）の因果係数は0.23であり，正の相関関係

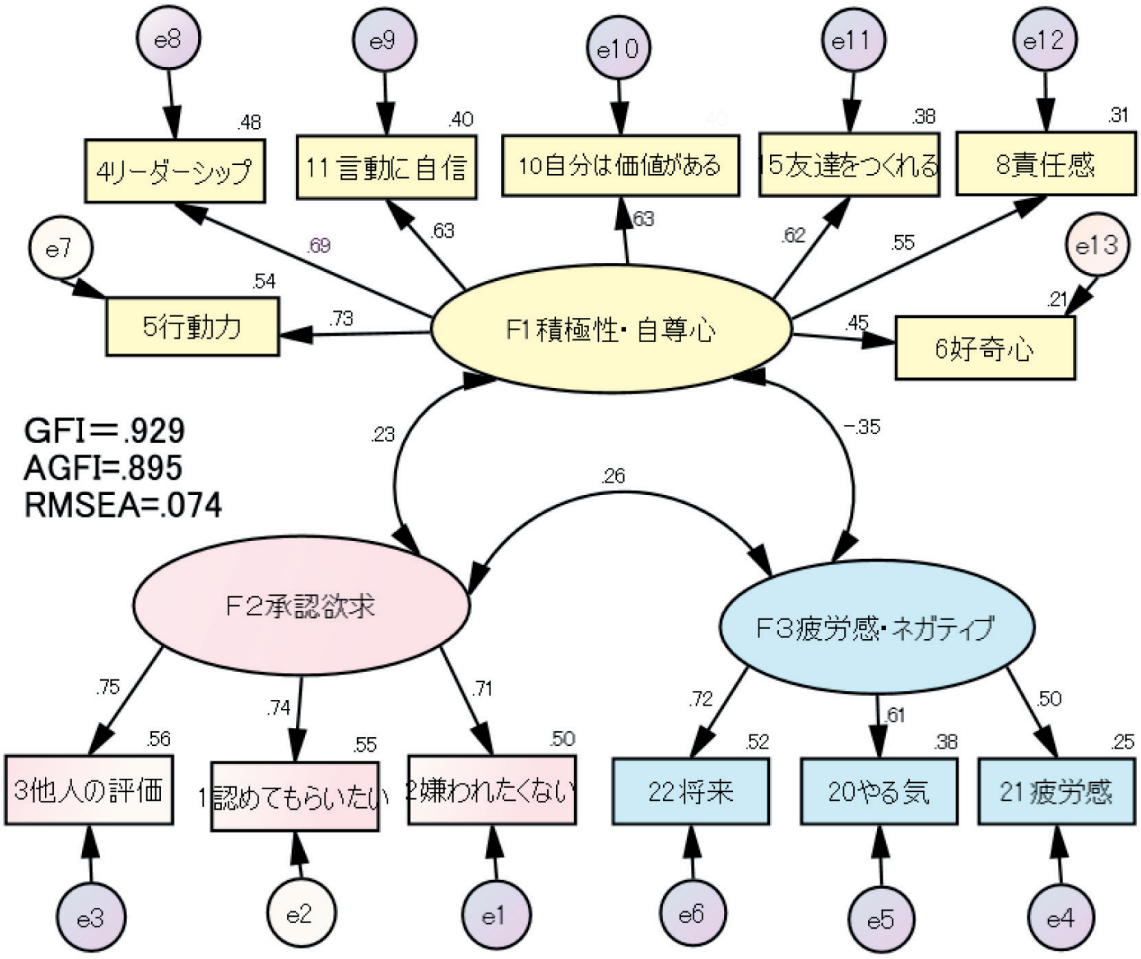

図10.「価値観」の構造方程式モデリング（全体）N=348

を示した。「5 行動力がある方だ（0.73）」，「4 リーダーシップを発揮する方だ（0.69）」，「11 自分の言動に自信を持っている（0.63）」，「10 自分は価値ある人間だと感じている（0.63）」，「15 知らない人の集まりでもすぐに友達をつくれる（0.62）」，「8 責任感や粘り強さがある（0.55）」，「6 好奇心が強い（0.45）」のように自分に自信をもち，積極的に周りを引っ張って行動する若者は，「3 他人の評価が気になる（0.75）」，「1 自分のことを認めてもらいたい（0.74）」，「2 誰からも嫌われたくない（0.71）」といった自分の存在を他人に認めてもらいたいと思うことに正の関連があると言える。

「F1 積極性・自尊心」⇔「F3 ネガティブ・疲労感」の因果係数は－0.35であり負の相関関係を示した。自分に自信をもち，積極的に周りを引っ張って行動する若者は，マイナス思考になったり疲労感を感じたりすることに負の相関があるといえる。これらのことから，自尊心を持ち，積極的にリーダーシップを発揮し行動する若者は，承認欲求が高く，ポジティブで疲労感を感じることも少ないという共変関係にあると考えられる。

以下は用語解説である。

※[10]・Goodness of Fit Index = GFI：モデルがデータの分散共分散行列をどの程度再現できているかを指標化したもの。値の上限は1.0であり，これに近いほど説明率が高い，適合のよいモデルであると判断する。モデルの決定係数に相当する。

・Adjusted Goodness of Fit Index=AGFI：その定義上，推定させる母数が多い（自由度が小さい）と無条件に値が大きくなる傾向があるので，このバイアスを修正するためにGFIに対して自由度による補正を加えたもの。値の範囲と適合の判断はGFIと同様。モデルの自由度調整済み決定係数に相当する。

・Root Mean Square Error of Approximation = RMSEA：1自由度あたりの乖離度の大きさを評価する指標。極力，モデルの複雑さの影響を取り除いた形で乖離度の大きさを捉えるため，近年幅広く利用されるようになった。値は0.0に近いほど適合がよいと考える。

3-3. 若者のファッション行動

若者のファッション行動について，体型意識，美容，流行性，機能性，価格性，規範性，こだわりなどから構成された35項目を，4段階評定尺度（4.あてはまる，3.ややあてはまる，2.ややあてはまらない，1.あてはまらない）に対してそれぞれ4から1点を与え，評定を求めた。「ファッション行動」の測定尺度項目と評定平均値を表7に示す。

3-3-1. 若者の「ファッション行動」の男女比較

男女間でどのようなファッション行動の違いがあるのかを見るため，平均値の差の検定（t検定）を行った。その結果，35項目中25項目において男女で有意差がみられた。全項目の約7割の項目において有意差がみられたことから男女でファッション行動に大きな違いがあるといえる。表7に示すように，有意差のあった項目において男子の評定平均値が高いのは4項目のみであり，女子の評定平均値が高いのは21項目であった。このことから，女子はファッション行動への意識が高く，こだわりをもっていると考えられる。有意差がみられた項目を図11に示した。女子は常に自分の外見を気にしており，ダイエットやカロリー制限により体重管理をし，服を着る際もコーディネートや見映えを考え，流行や髪の色，下着といった細部にも気を配っており，自分の体型への意識が高く，ファッション行動に積極的であると考えられる。それに対し，男子は，ダイエットやカロリー制限などはあまりせず，服を着る際も体型の見映えにあまり気を配らないため，自分の体型への意識も低く，ファッション行動も女子に比べると消極的で最低限の行動であると考えられる。

3-3-2. 若者の「ファッション行動」の探索的因子分析

現代の若者の「ファッション行動」35項目（4件法）に対して，全体構造を調べるため因子分析を行った。その際，平均値の差の検定（t検定）により35項目中25項目で有意差がみられ，男女間でファッション行動に大きな差があると考えられることや，「34.靴のヒールは高い方を好む」，「42.筋肉質な体型になりたい」（$p<0.001$）といった男女一方に相応しくない項目があることから，全体での因子分析は行わず男子女子それぞれで因子分析を行った。

（1）「ファッション行動」の探索的因子分析（男子）

男子の「ファッション行動」35項目（4件法）に対して全体構造を調べるため因子分析を行った。その結果，測定尺度35項目のうち最終的な測定尺度項目は固有値1以上の13項目となり，6因子が抽

表 7. 若者の「ファッション行動」の測定尺度項目の評定平均値

ファッション行動（35項目）	男 平均値	男 SD	女 平均値	女 SD	t 値	p	short words
24. ダイエットをする	1.98	0.992	2.79	0.939	−7.64	***	24. ダイエット
25. 自分の外見を良くしようと努力する	2.88	0.864	3.17	0.713	−3.33	**	25. 外見を良くする努力
26. 体重管理のためによく低カロリーの食べ物を食べる	1.91	0.920	2.44	0.897	−5.24	***	26. 体重管理
27. 爪や肌も手入れにも気をつける方である	2.35	0.946	2.58	0.894	−2.33	*	27. 爪・肌ケア
28. ヘアケアに気を遣っている	2.23	0.936	2.66	0.914	−4.22	***	28. ヘアケア
29. 化粧をすることは最低限のマナーだと思う	2.11	0.857	2.66	0.869	−5.61	***	29. 化粧はマナー
30. 男は男らしく、女は女らしい服装をするのがよい	2.44	0.957	2.21	0.843	2.32	*	30. 服装の性別意識
31. 長髪の男性はおかしいと思う	2.03	0.923	2.13	0.886	−0.96		31. 男髪男性はおかしい
32. おしゃれな人に好感を持つ	3.14	0.736	3.37	0.628	−3.06	**	32. オシャレに好感
33. 服のコーディネートに気を配る	2.73	0.866	3.21	0.675	−5.34	***	33. 服のコーディネート意識
34. 靴のヒールは高い方を好む	1.62	0.771	2.04	0.941	−4.28	***	34. 高ヒールを好む
35. 髪を染めている	1.80	1.182	2.38	1.383	−4.13	***	35. 髪を染める
36. スタイル（体型）がよく見えるように気を配る	2.36	0.949	3.04	0.811	−6.71	***	36. スタイル意識
37. 下着にも気を配る	1.97	0.936	2.49	0.893	−5.14	***	37. 下着意識
38. 毎日異なる衣服を着るようにしている	3.10	0.914	3.39	0.654	−3.18	**	38. 毎日異なる衣服着用
39. 姿勢を気にしている方だ	2.40	0.918	2.49	0.847	−0.98		39. 姿勢意識
40. 着る服によってテンションが上がることがある	2.73	1.045	3.29	0.821	−5.12	***	40. 着る服による気分高揚
41. その日の服装によって気分が左右されることがある	2.55	0.999	2.94	0.931	−3.57	***	41. 服装による気分左右
42. 筋肉質な体型になりたい	3.09	0.874	1.86	0.815	13.15	***	42. 筋肉質体型への憧れ
43. 宣伝・広告を見ている方だ	2.27	0.942	2.45	0.835	−1.82		43. 宣伝・広告意識
44. アクセサリーを身に着ける	2.02	1.036	2.54	0.898	−4.89	***	44. アクセサリー
45. 服装で自分を表現しようとする	2.30	0.996	2.63	0.878	−3.25	**	45. 服装で自己表現
46. カバンや靴との組み合わせに気を遣っている	2.33	1.020	2.88	0.913	−5.02	***	46. 小物組み合わせ意識
47. 流行の服を着るよう心がける	2.01	0.967	2.19	0.828	−1.87		47. 流行服重視
48. 今何が流行っているか知っている	1.92	0.959	2.39	0.936	−4.44	***	48. 流行把握
49. 流行を追うよりも、いいものを長く着る方がよい	3.04	0.790	3.06	0.728	−0.21		49. 服の物持ち重視
50. 保温性や通気性の良い服を選ぶ	2.80	0.884	2.63	0.821	1.85		50. 服の着心地重視
51. 暑さや寒さを感じても見た目を重視してがまんする	2.09	0.874	2.28	0.860	−1.94		51. 服の見た目重視
52. 服はデザインよりも動きやすさを重視する	2.64	0.905	2.38	0.665	2.78	**	52. 服の機能性重視
53. 気に入った服でも高ければ買わない	2.88	0.925	2.92	0.833	−0.41		53. 服の価格重視
54. 多少値段が高くても品質の良い服を選ぶ	2.63	0.888	2.48	0.751	1.56		54. 服の品質重視
55. 衣服は安くてもいいから数多く持ちたい	2.42	0.912	2.67	0.797	−2.56	*	55. 服のバリエーション重視
56. 不謹慎だと思われる服装はしたくない	3.39	0.783	3.57	0.572	−2.30	*	56. 自分の服装規範意識
57. 人が場違いな服装をしているのを見るのは耐え難い	3.00	0.979	3.15	0.728	−1.47		57. 他人の服装規範意識
58. 季節感を気にしない	2.01	0.841	1.80	0.719	2.39	*	58. 服装の季節感無視
***:p＜0.001, **:p＜0.01, *:p＜0.05	N=124		N=224				

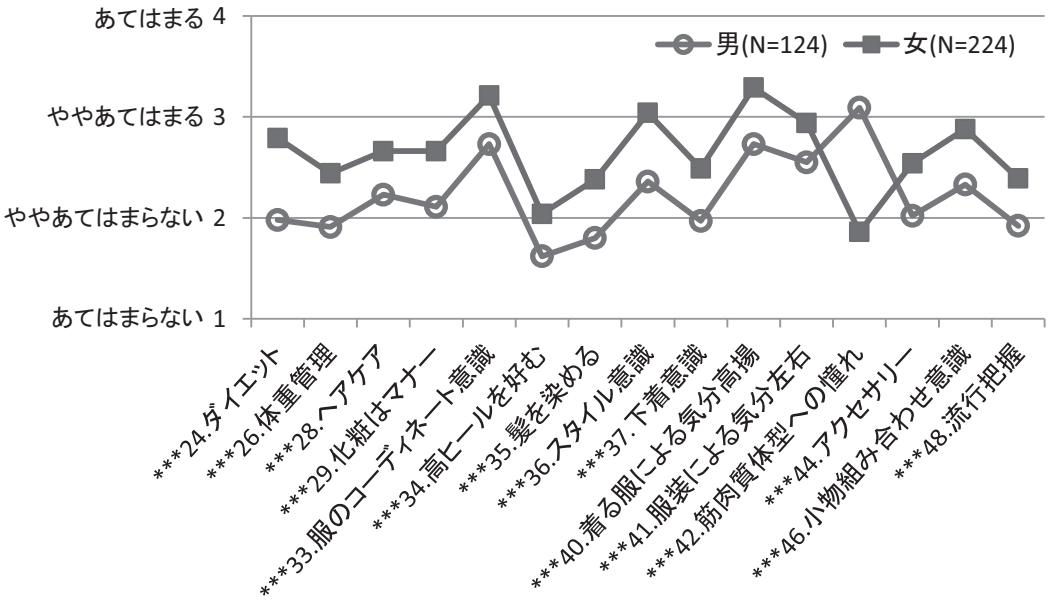

図11.「ファッション行動」有意差がある項目の評定平均値　（***：p＜0.001）

出され，累積寄与率は58.7％であった（表 8）。

第一因子は，「41 その日の服装によって気分が左右されることがある」，「40 着る服によってテンションが上がることがある」の項目の因子負荷量が高いことから「Ⅰ服装による気分左右」と命名した。第二因子は，「47 流行の服を着るよう心がける」，「48 今何が流行っているか知っている」の項目の因子負荷量が高いことから「Ⅱ 流行重視」と命名した。第三因子は，「50保温性や通気性の良い服を選ぶ」，「52 服はデザインよりも動きやすさを重視する」，「55 衣服は安くてもいいから数多く持ちたい」の項目の因子負荷量が高いことから「Ⅲ 服の機能性重視」と命名した。第四因子は，「56 不謹慎だと思われる服装はしたくない」，「57人が場違いな服装をしているのを見るのは耐え難い」の項目の因子負荷量が高いことから「Ⅳ 服装規範意識」と命名した。第五因子は，「54 多少値段が高くても品質の良い服を選ぶ」，「53 気に入った服でも高ければ買わない」の項目の因子負荷量が高いことから「Ⅴ 服の品質重視」と命名した。第六因子は，「32 おしゃれな人に好感を持つ」，「58 季節感を気にしない」の項目の因子負荷量が高いことから「Ⅵ おしゃれ感重視」と命名した。

(2)「ファッション行動」の探索的因子分析（女子）

女子の「ファッション行動」35項目（4 件法）に対して，全体構造を調べるため因子分析を行った。その結果，測定尺度35項目のうち，最終的な測定尺度項目は固有値 1 以上の11項目となり，4 因子が抽出され，累積寄与率は47.2％であった（表 9）。

第一因子は，「27 爪や肌の手入れにも気をつける方である」，「28 ヘアケアに気を遣っている」，「26 体重管理のためによく低カロリーの食べ物を食べる」，「39 姿勢を気にしている方だ」の項目の因子負荷量が高いことから「Ⅰ美容意識」と命名した。第二因子は，「41 その日の服装によって気分が左右されることがある」，「40 着る服によってテンションが上がることがある」の項目の因子負荷量が高いことから「Ⅱ 服装による気分高揚」と命名した。第三因子は，「57人が場違いな服装をしているのを見るのは耐え難い」，「56 不謹慎だと思われる服装はしたくない」，「58 季節感を気にしない」の項目の因子負荷量が高いことから「Ⅲ 服装規範意識」と命名した。第四因子は，「50 保温性や通気性の良い服を選ぶ」，「52 服はデザインよりも動きやすさを重視する」の項目の因子負荷量が高いことから「Ⅳ 服の機能性重視」と命名した。女子は

表 8.「ファッション行動」の因子分析（男子） N=124

評定項目（13項目）	因子負荷量					
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
41 その日の服装によって気分が左右されることがある	.956	.285	−.088	.118	.007	.140
40 着る服によってテンションが上がることがある	.735	.225	−.147	.078	.147	.251
47 流行の服を着るよう心がける	.243	.849	.001	.198	.097	.195
48 今何が流行っているか知っている	.256	.829	−.034	.192	.225	.237
50 保温性や通気性の良い服を選ぶ	−.033	.010	.865	.142	.050	−.005
52 服はデザインよりも動きやすさを重視する	−.254	−.139	.620	.004	−.093	−.085
55 衣服は安くてもいいから数多く持ちたい	.052	.141	.382	.140	−.229	−.005
56 不謹慎だと思われる服装はしたくない	.016	.060	.193	.849	−.078	.298
57 人が場違いな服装をしているのを見るのは耐え難い	.161	.301	.029	.699	.158	.153
54 多少値段が高くても品質の良い服を選ぶ	.070	.183	.070	.156	.766	.174
53 気に入った服でも高ければ買わない	−.083	−.095	.352	.194	−.520	.296
32 おしゃれな人に好感を持つ	.222	.202	−.048	.150	.100	.756
58 季節感を気にしない	−.137	−.253	.152	−.295	−.004	−.469
[寄与率] 累積寄与率 %	[14.8]	[13.1]	[10.6]	[8.0]	[6.7]	[5.4]58.7
Ⅰ 服装による気分高揚	1.000	.318	−.135	.108	.097	.191
Ⅱ 流行重視		1.000	−.051	.229	.189	.221
Ⅲ 服の機能性重視			1.000	.163	−.124	.025
Ⅳ 服装規範意識				1.000	−.009	.328
Ⅴ 服の品質重視					1.000	−.006
Ⅵ おしゃれ感重視						1.000

最尤法−プロマックス回転

表 9.「ファッション行動」の因子分析（女子） N=224

評定項目（13項目）	因子負荷量			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
27 爪や肌も手入れにも気をつける方である	.828	.230	.394	−.039
28 ヘアケアに気を遣っている	.809	.266	.339	−.082
26 体重管理のためによく低カロリーの食べ物を食べる	.562	.114	.056	.031
39 姿勢を気にしている方だ	.455	.260	.211	.162
41 その日の服装によって気分が左右されることがある	.210	.936	.197	−.041
40 着る服によってテンションが上がることがある	.328	.718	.338	−.153
57 人が場違いな服装をしているのを見るのは耐え難い	.242	.290	.647	−.081
56 不謹慎だと思われる服装はしたくない	.197	.185	.568	.010
58 季節感を気にしない	−.135	−.021	−.456	−.077
50 保温性や通気性の良い服を選ぶ	.132	−.023	−.026	.729
52 服はデザインよりも動きやすさを重視する	−.110	−.084	.056	.477
［寄与率］累積寄与率 %	［18.1］	［14.3］	［7.4］	［7.4］47.2
Ⅰ 美容意識	1.000	.306	.372	.001
Ⅱ 服装よる気分高揚		1.000	.308	−.088
Ⅲ 服装規範意識			1.000	−.050
Ⅳ 服の機能性重視				1.000

最尤法−プロマックス回転

自分の爪や肌，髪の状態に気を遣ったり，体型や姿勢を気にしたりといった自分の外見を良くすることを最も重視していると考えられる。

3-3-3. 若者の「ファッション行動」の因果関係

（1）「ファッション行動」の構造方程式モデリング（男子）

若者男子のファッション行動における因果関係を明らかにするため，共分散構造分析を行った。「F1 服装による気分高揚」の 2 項目，「F2 流行重視」の 2 項目，「F6 おしゃれ感重視」の 2 項目を観測変数（四角形で表す）とした構造方程式モデルを検討した。図12は有意差が見られた因果係数を示してある。構造方程式のモデリングの妥当性を検討した結果，適合度指標[10] は GFI=0.986，AGFI=0.953，RMSEA=0.000を示したので，モデルの説明力，データへの当てはまりから適合度が非常に高いと言

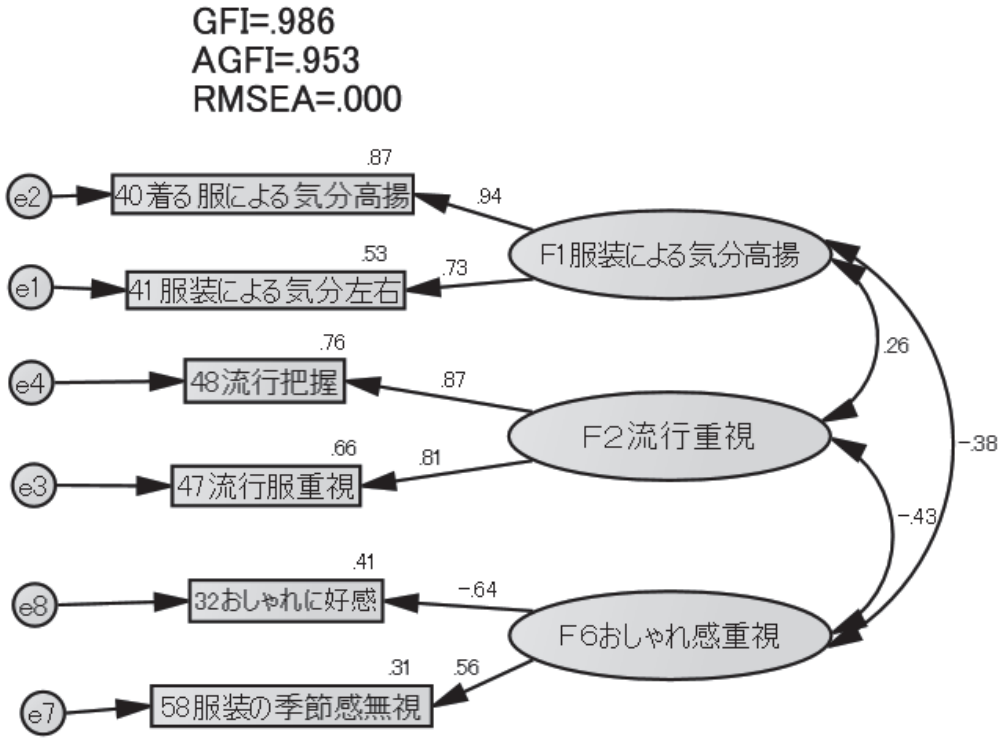

図12.「ファッション行動」の構造方程式モデリング（男子） N＝124

える。

「F1服装による気分高揚」⇔「F2 流行重視」（両方向の矢印は共変関係を示し，お互いに関連しあう状態を表す）の因果係数は0.26であり正の相関関係を示した。「41 その日の服装によって気分が左右されることがある（0.73）」，「40 着る服によってテンションが上がることがある（0.94）」のように服によって気分の高揚を感じる男子は，「47 流行の服を着るよう心がける（0.81）」，「48 今何が流行っているか知っている（0.87）」といった流行を把握し，流行のものを身に着けることに正の相関があるといえる。

（2）「ファッション行動」の構造方程式モデリング（女子）

若者女子のファッション行動の因果関係を明らかにするため，共分散構造分析を行った（図13）。「F1 美容意識」の４項目，「F2 服装による気分高揚」の２項目，「F3 服装規範意識」の３項目を観測変数（四角形で表す）とした構造方程式のモデルを検討した。構造方程式のモデリングの妥当性を検討した結果，適合度指標[10] はGFI=0.969，AGFI=0.942，RMSEA=0.042を示したので，モデルの説明力，データへの当てはまりから適合度が非常に高いと言える。

潜在変数（楕円形で表す）間の因果係数を見ると，「F1 美容意識」⇔「F2 服装による気分左右」（両方向の矢印は共変関係を示し，お互いに関連しあう状態を表す）の因果係数は0.33であり正の相関関係を示した。「27 爪や肌も手入れにも気をつける方である（0.84）」，「28 ヘアケアに気を遣っている（0.81）」，「26 体重管理のためによく低カロリーの食べ物を食べる（0.53）」，「39 姿勢を気にしている方だ（0.44）」のように爪や肌，体型，姿勢といった自分の外見に気を遣う女子は，「41 その日の服装によって気分が左右されることがある（0.64）」，「40 着る服によってテンションが上がることがある（1.01）」といった服による気分高揚に正の関連があると言える。

「F2 服装による気分左右」⇔「F3 服装規範意識」の因果係数は−0.39であり負の相関関係を示した。服によって気分高揚を感じる女子は，「57人が場違いな服装をしているのを見るのは耐え難い（−0.68）」，「56 不謹慎だと思われる服装はしたくない（−0.59）」，「58 季節感を気にしない（0.37）」のように人が場違いな服装をしたり，自分が季節感のない格好や不謹慎な服装をしたりすることに負の相関があるといえる。

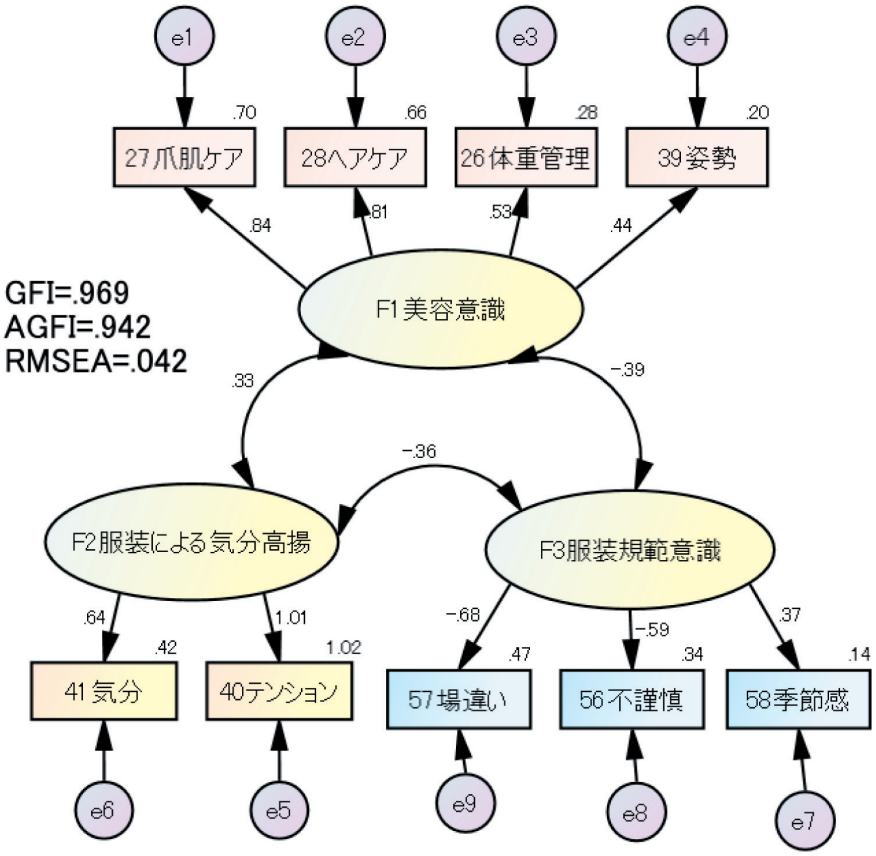

図13.「ファッション行動」の構造方程式モデリング（女子）N=224

「F1 美容意識」⇔「F3　服装規範意識」の因果係数は–0.33であり負の相関関係を示した。爪や肌，体型，姿勢といった自分の外見に気を遣う女子は，人が場違いな服装をしていたり，自分が季節感のない格好や不謹慎な服装をしたりすることに負の相関があるといえる。

これらのことから，髪や肌，爪，体型といった自分の外見に気を遣い美容意識が高い女子は，服装による気分高揚を感じやすく，TPOや季節感といった服装規範意識も高いという共変関係にあると考えられる。

3–4. 若者の「価値観」類型化に見る「ファッション行動」の特徴

若者の価値観の違いがファッション行動に及ぼす影響を明らかにするため，『価値観』の因子分析（全体）をもとに類型化された４つのクラスター（「CL1 ネガティブで疲労している群」，「CL2 消極的で承認欲求が低い群」，「CL3 好奇心が強く承認欲求が高い群」，「CL4 自信を持ち積極的で活発な群」）をもとに『ファッション行動』を比較した。

その際，４つのクラスターの中で承認欲求が最も高い CL3（好奇心が強く承認欲求が高い群）と承認欲求が最も低い CL2（消極的で承認欲求が低い群）を取り上げ，両者のファッション行動35項目の評定平均値を比較した。

CL2（消極的で承認欲求が低い群）と CL3（好奇心が強く承認欲求が高い群）のファッション行動の違いを見るため，平均値の差の検定（t 検定）を行った結果，35項目中22項目において有意差がみられた（図14）。0.1％水準で有意差がみられた項目は９項目，１％水準で有意差がみられた項目は６項目，５％水準で有意差がみられた項目は６項目となっている。

「ファッション行動」で有意差がみられた22項目すべてにおいて，CL2（消極的で承認欲求が低い群）に比べ CL3（好奇心が強く承認欲求が高い群）の評定平均値が高かった。これにより，CL2（消極的で承認欲求が低い群）に比べ CL3（好奇心が強く承認欲求が高い群）の方が，自分の外見向上の意識が高く，服のバリエーションを求め，アクセサリーを身に着けたりコーディネートに気を配ったりとこだわりを持ち，服装で自分を表現することで気分も高揚しやすいといえる。

以上，「価値観」において積極的で承認欲求が高い若者ほど，「ファッション行動」では自分の外見をよく見せようと努力し，服装で自分を表現するためにこだわりを持ち，日々のコーディネートにも気を配ることで，高揚感を感じており，ファッション行動に積極的であると考えられる。

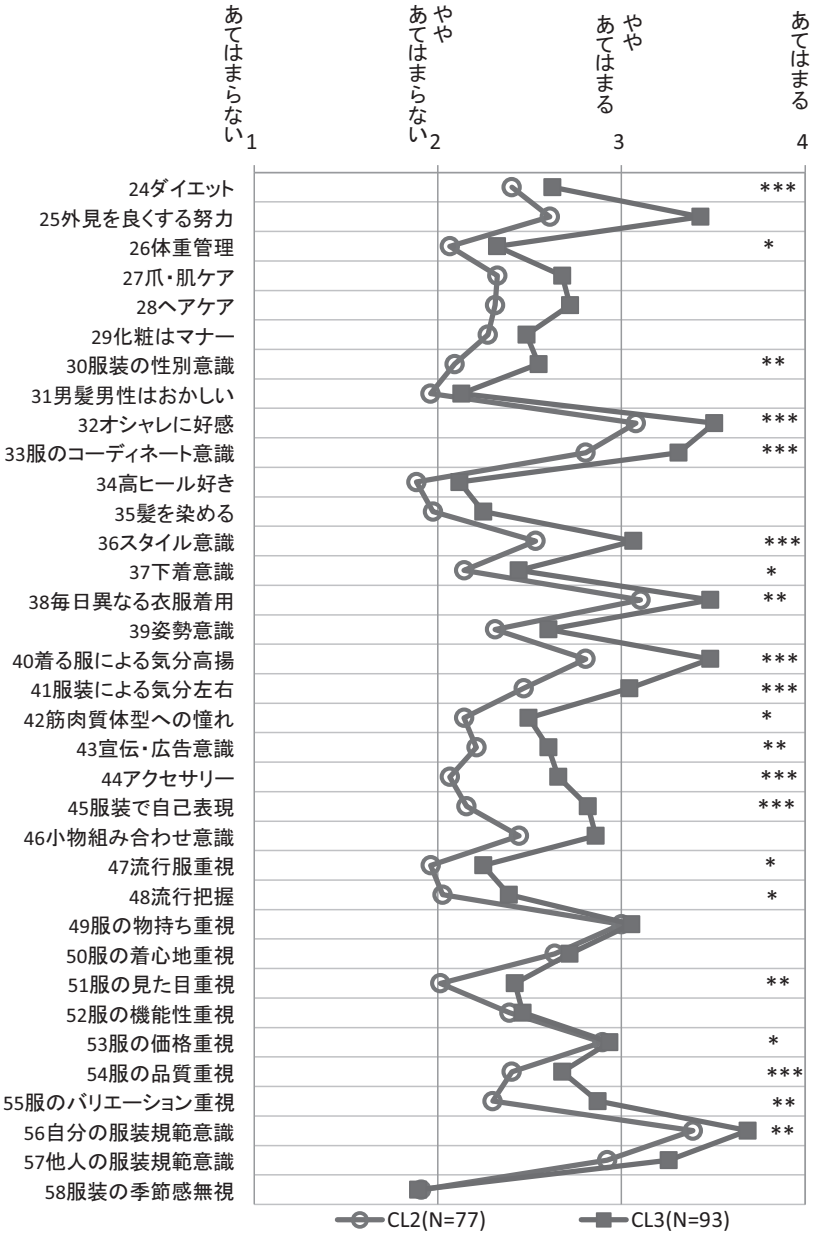

図14. CL2 と CL3 の「ファッション行動」評定平均値

Ⅳ. 考　察

『価値観』については男女で大きな違いはみられなかった。自尊心を持ち積極的にリーダーシップを発揮して行動する若者は，承認欲求が高く，ポジティブで疲労感を感じることも少ない共変関係にあることが分かった。男子は被服の品質を重視し，女子は美容意識を重視することが示唆された。

『ファッション行動』について男子は，被服によって気分高揚を感じる男子ほど，流行に敏感で，おしゃれ感を重視することがわかった。女子は，美容意識が高いほど，服装による気分高揚を感じやすく，服装規範意識も高いことがわかった。他にも，社会規範・自尊心と装い[11]・独自性欲求と装い[12]には関連がみられる。

『価値観』を類型化し，『ファッション行動』を比較した結果，『価値観』において積極的で承認欲求が高い若者ほど，『ファッション行動』では自分の外見向上意識が高く，こだわりを持ち，日々のコーディネートに気を配り，服装で自分を表現することで高揚感を感じており，ファッション行動に積極的であることがわかった。

一方，『ファッション行動』に無関心で『価値観』も消極的な若者も多く，服装に興味を持つきっかけを与えることで積極的な価値観になれることも示唆された。

（1）自己申告による上衣のサイズについて，男子はLサイズ以上が６割で多く，女子は子のMサイズが６割，Lサイズ以上が2.8割だった。男女共に衣服のサイズは大きいことから，富山地域の既製服ブランドの商品の品揃えには，体型の大きい若者への対策が必要と考えられる。

経済状況については，１か月の小遣いの平均額は全体27,291円，男子31,095円，女子25,226円であった。奨学金，アルバイト代，小遣いの平均額は男子の方が高く，仕送りの平均額は女子の方が高かった。収入面では，男子の仕送り額と女子のアルバイト代，男子のアルバイト代と仕送り額がほぼ同じ額であり，生活費の賄い分は男女で差はないといえる。

（2）『価値観』23項目（４件法）の平均値の差の検定では，男女間で23項目中６項目において有意差がみられた。他の17項目においては有意差が見られなかったため，男女で価値観に大きな違いはないといえる。

有意差があった項目の評定平均値から，男子は自分に自信を持ち積極的であるのに対し，女子は自分に自信がなく消極的で自己嫌悪を抱いている傾向があるが，これは女子の自分に対する期待値や理想が高く，現状の自分に不満足であるためと考えられる。

また，「女性は結婚後には職をもつべきではない」の項目では，男女全体の94％が否定的な考えであり，現在の若者の価値観の中で，男女の性別による格差や性別意識が薄れつつあるといえる。

現在の若者の『価値観』の因子分析を行った結果，「Ⅰ 積極性・自尊心」，「Ⅱ 承認欲求」，「Ⅲ ネガティブ・疲労感」の３因子が得られた。

『価値観』の因子得点をもとに，クラスター分析を行った結果，４つのクラスターに分類された。CL1（N=85）は「ネガティブで疲労している群」，CL2（N=77）は「消極的で承認欲求が低い群」，CL3（N=93）は「好奇心があり承認欲求が高い群」，CL4（N=91）は「自信を持ち積極的で活発な群」と特徴づけられた。

（3）若者の『価値観』の構造方程式モデルは，GFI=0.929，AGFI=0.895，RMSEA=0.074の適合度が高いモデルが得られた。

「F1 積極性・自尊心」⇔「F2 承認欲求」の因果係数は0.23であり，正の相関関係を示した。このことから，自分に自信をもち，積極的に周りを引っ張って行動する若者は，自分の存在を他人に認めてもらいたいと思うことに正の関連があると言える。

「F1 積極性・自尊心」と「F3 ネガティブ・疲労感」の因果係数は-0.35であり負の相関関係を示した。自分に自信をもち，積極的に周りを引っ張って行動する若者は，マイナス思考になったり疲労感を感じたりすることに負の相関があるといえる。

これらのことから，自尊心を持ち，積極的にリーダーシップを発揮し行動する若者は，承認欲求が高く，ポジティブで疲労感を感じることも少ないという共変関係にあると考えられる。

（4）「ファッション行動」（35項目）の平均値の差の検定では，男女間で35項目中25項目において有意差がみられた。このことから，男女でファッション行動に大きな違いがあるといえる。

有意差があった項目の評定平均値から，女子は常に自分の外見を気にしており，自分の体型への意識が高く，ファッション行動にも積極的であると考えられる。

それに対し，男子は自分の体型への意識が低く，ファッション行動についても女子に比べると消極的で最低限の行動であると考えられる。

男子の「ファッション行動」の因子分析結果，「Ⅰ 服装による気分左右」，「Ⅱ 流行重視」，「Ⅲ 服の機能性重視」，「Ⅳ 服装規範意識」，「Ⅴ 服の品質重視」，「Ⅵ おしゃれ感重視」の６因子が得られた。

女子の「ファッション行動」の因子分析結果，「Ⅰ 美容意識」，「Ⅱ 服装による気分左右」，「Ⅲ 服装規範意識」，「Ⅳ 服の機能性重視」の４因子が得られた。

（5）男子の『ファッション行動』の構造方程式モデルは GFI=0.986，AGFI=0.953，RMSEA=0.000であり，適合度が非常に高いモデルが得られた。

「F1服装による気分高揚」⇔「F2 流行重視」の因果係数は0.26であり正の相関関係を示した。このことから服によって気分の高揚を感じる男子は，流行を把握し，流行のものを身に着けることに正の相関があるといえる。「F1 服装による気分高揚」⇔「F6 おしゃれ感重視」の因果係数は-0.38であり負の相関関係を示した。

服によって気分の高揚を感じる男子は，おしゃれに無関心で季節感を気にしないことに負の相関があるといえる。

「F2 流行重視」⇔「F6 おしゃれ感重視」の因果係数をみると，因果係数は-0.43であり負の相関関係を示した。流行を把握し，流行のものを身に着ける男子は，おしゃれに無関心で季節感を気にしないことに負の相関があるといえる。

これらのことから，服によって気分高揚を感じる男子ほど，流行に敏感で，季節感のある格好やおしゃれ感を重視するという共変関係にあると考えられる。また，流行に敏感な男子ほど，季節感のある格好やおしゃれ感を重視するという共変関係にあると考えられる。

（6）女子の『ファッション行動』の構造方程式モデルは GFI=0.969，AGFI=0.942，RMSEA=0.042であり，適合度が非常に高いモデルが得られた。

「F1 美容意識」⇔「F2 服装による気分左右」の因果係数は0.33であり正の相関関係を示した。爪や肌，体型，姿勢といった自分の外見に気を遣う女子は，服による気分高揚に正の関連があると言える。

「F2 服装による気分左右」⇔「F3 服装規範意識」の因果係数は-0.39であり負の相関関係を示した。

服によって気分高揚を感じる女子は，人が場違いな服装をしていたり，自分が季節感のない格好や不謹慎な服装をしたりすることに負の相関があるといえる。

「F1 美容意識」⇔「F3　服装規範意識」の因果係数は-0.33であり負の相関関係を示した。爪や肌，体型，姿勢といった自分の外見に気を遣う女子は，人が場違いな服装をしていたり，自分が季節感のない格好や不謹慎な服装をしたりすることに負の相関があるといえる。これらのことから，髪や肌，爪，体型といった自分の外見に気を遣い美容意識が高い女子は，服装による気分高揚を感じやすく，TPOや季節感といった服装規範意識も高いという共変関係にあると考えられる。

（7）『価値観』23項目（4 件法）の因子分析（全体）をもとに，若者が４つのクラスターに分類された。「CL1 ネガティブで疲労している群」，「CL2消極的で承認欲求が低い群」，「CL3 好奇心が強く承認欲求が高い群」，「CL4 自信を持ち積極的で活発な群」の中で「好奇心が強く承認欲求が最も高いCL3」と「消極的で承認欲求が最も低いCL2」を取り上げ，両者の「ファッション行動」35項目（4 件法）の評定平均値を比較した。

平均値の差の検定（t 検定）を行った結果，35項目中22項目において有意差がみられた。有意差がみられた22項目すべてにおいて，CL2（消極的で承認欲求が低い群）に比べCL3（好奇心が強く承認欲求が高い群）の評定平均値が高かった。

以上，『価値観』において積極的で承認欲求が高い若者ほど，『ファッション行動』では自分の外見をよく見せようと努力し，服装で自分を表現するためにこだわりを持ち，日々のコーディネートにも気を配ることで，高揚感を感じており，ファッション行動に積極的であると考えられる。

本研究により，富山地域の若者のアパレル産業の品揃え計画の基礎資料となることを期待する。『価値観』の類型（4 Cluster）別には「積極的で承認欲求が高い若者」ほど，『ファッション行動』で自己表現に積極的であった。一方，『価値観』に消極的で『ファッション行動』も無関心な若者も多くいた。若者には服装に興味を持つきっかけを与えることで，積極的な価値観になれることが示唆された。

V．結　論

『価値観』については男女で大きな違いはみられなかった。自尊心を持ち積極的にリーダーシップを発揮して行動する若者は，承認欲求が高く，ポジティブで疲労感を感じることも少ない共変関係にあることが分かった。男子は被服の品質を重視し，女子は美容意識を重視することが示唆された。

『ファッション行動』について男子は，被服によって気分高揚を感じる男子ほど，流行に敏感で，おしゃれ感を重視することがわかった。女子は，美容意識が高いほど，服装による気分高揚を感じやすく，服装規範意識も高いことがわかった。

『価値観』を類型化し，『ファッション行動』を比較した結果，『価値観』において積極的で承認欲求が高い若者ほど，『ファッション行動』では自分の外見向上意識が高く，こだわりを持ち，日々のコーディネートに気を配り，服装で自分を表現することで高揚感を感じており，ファッション行動に積極的であることがわかった。

また，『ファッション行動』に無関心で『価値観』も消極的な若者も多く，服装に興味を持つきっかけを与えることで積極的な価値観になれることも示唆された。

本研究の一部は，日本繊維製品消費科学会2015年６月（信州大学）の年次大会で発表した。

［謝　辞］

本研究にご協力いただいた大学生の皆様に，深く感謝申し上げます。

引用文献・参考文献

1）松下東子：生活者1万人アンケートにみる日本人の価値観・消費行動の変化－第７回目の時系列調査結果のポイント－，http://www.nri.com/jp/event/mediaforum/2015/forum229.html

2）松下東子：生活者一万人アンケートに見る日本人の価値観・消費行動の変化，繊維製品消費科学，vol.56, 939–943（2015.12）

3）山中大子，山口香，川端博子：母親の価値観が幼児服の購買行動に及ぼす影響，埼玉大学紀要，教育学部，60（1）71–78（2011）

4）孫　珠熙，蒲池香津代，渡辺澄子：分散構造分析による日・韓男子高校生のライフスタイルの比較，日本家政学会誌，Vol. 61, No.4, 231–238（2010）

5）孫　珠熙：構造方程式モデリング手法を用いた女子学生のファッション行動と購読女性雑誌の検討–2008年～2010年の傾向を中心に–，日本家政学会誌，Vol.64, No.3, 147–156（2013）

6）孫　珠熙・榊原愛華：富山エリアのアパレルブランド分析と若者の体型・ファッション行動に関する研究，富山大学人間発達科学部紀要，vol. 9, No. 2, 79–96（2015）

7）孫　珠熙，馬場弘朗：若者の価値観によるファッション購買行動の特徴,繊維製品消費科学会年次大会（信州大学）・研究発表要旨，19（2015. 6）

8）手塚　豊：若者再考論～「いまどきのヤツは」を超えて～，繊維製品消費科学，vol.56, 945–950（2015.12）

9）文部科学省：平成26年度体力・運動能力調査結果の概要及び報告書について http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa04/tairyoku/kekka/k_detail/1362690.htm

10）豊田秀樹：統計ライブラリー–共分散構造分析［疑問編］–構造方程式モデリング–，朝倉書店，122–124（2003. 12）

11）小林茂雄：装いの心理，アイ・ケイコーポレーション（2010.5）

12）孫　珠熙，近藤信子：女子学生の被服行動に影響を及ぼす独自性欲求とファストファッションのイメージ構造，富山大学人間発達科学部紀要，7（2），107–117（2013）

（2016年５月20日受付）
（2016年７月11日受理）

和文要旨

本研究は若者の『価値観』が『ファッション行動』に及ぼす影響を明らかにすることを目的とし，大学生（n=348）に質問紙調査を行った。その結果，自己申告による上着のサイズについて，男子はＬサイズ以上が６割で多く，女子はLサイズ以上が３割だった。『価値観』項目の評定平均値は男女の有意差は少なく，「Ⅰ積極性・自尊心」「Ⅱ承認欲求」「Ⅲネガティブ・疲労感」の３因子が得られた。『ファッション行動』項目は男女で多数の項目に有意差が見られた。また，『価値観』と『ファッション行動』において，それぞれ適合度の高い構造方程式モデルが得られた。『価値観』の類型（4 Cluster）別では「積極的で承認欲求が高い若者」ほど，『ファッション行動』で自己表現に積極的であった。一方，『価値観』に消極的で『ファッション行動』も無関心な若者も多くいた。若者には服装に興味を持つきっかけを与えることで，積極的な価値観になれることが示唆された。